

第47回(2024年度)全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会【戦評】

会場：千葉県国際総合水泳場 【2025/3/30】

C決勝

京都踏水会

11

4	—	5
2	—	3
1	—	4
4	—	2

14

春野水球クラブ

PSO

川東 雅

審判:

温井 真心

この試合のプレー集計

京 都 踏 水 会	21	SH数	18	春 野 水 球 ク ラ ブ
	3	速攻数	1	
	4	ST・SB	5	
	6	SH・P誘発アシスト	7	
	7%	GK阻止率	21%	
	3	EX反則数	6	

ST・SB: ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

U-16桃太郎カップの覇者踏水会、夏JO優勝の春野という同世代の両巨頭同士の決勝戦。踏水会のディフェンス力と春野⑦ローリーの攻撃力の勝負。両チームともに戦い方がはっきりしているだけに、特に踏水会側がどこまで⑦ローリー封じができるかが勝負の分かれ目となる決勝戦。

<1P>

先制点はやはり⑦ローリー。センターボールからトップ位置で決める。踏水会もエース②高木の右サイドドライブSH攻撃で同点に追いつく。しかし⑦ローリーの動きは広範囲で、その動きに踏水会DFが振られ、ノーマークになった②田北がトップ位置から決めて春野がリード。踏水会も攻撃の手は緩めず、退水を決めて2-2の同点に。しかしこれも春野⑦ローリーが中央ドライブSHを決めるなど春野が優位に。踏水会も②高木が加点するが、ピリオド終了のブザービートSHを春野⑦ローリーが決めて、踏水会4-5春野で第1ピリオド終了。

<2P>

踏水会②高木が退水を誘発し、その②高木が右サイドに位置した左利き③沼井にパス。③沼井が右サイド0°位置から退水セット攻撃を決めて再び、5-5の同点に持ち込む。しかし、これも春野⑦ローリーがトップ位置、ペナルティを決めて引き離す。さらに春野DFに手を焼いて、踏水会が苦し紛れのSHを放つも、またしても春野⑦ローリーの中央ドライブSHがさく裂。踏水会5-8春野と一気に点差が広がる展開となった。踏水会も②高木がペナルティを誘発し、そこを決めて踏水会6-8春野で前半を折り返した。

<3P>

春野らしい展開攻撃は1:20。踏水会のシュートミス突き、春野⑦ローリーが中央ドライブ。その攻撃に踏水会DFを集めたところを、⑦ローリーがセンター位置の②田北にタップパス。それを決めて踏水会7-11春野と4点差に広げた。ボールを動かし続けるプレーという意味で、ジュニア世代の見本となるプレーだ。対する踏水会攻撃場面にも似たようなドライブ攻撃場面があったが、パスする選手がボールを長く持ちすぎて攻撃スピードが落ちてしまった。終始ボールを動かした春野がリードを広げて第3ピリオド終了(踏水会7-12春野)。

<4P>

踏水会は②高木、⑦宮内らが連続得点して反撃態勢に。春野はタイムアウトでチームを落ち着かせ、そこを⑨開が右サイドから決めて4点差に。最後の得点も結局は春野⑦ローリー。ミドルレンジからゴールバー直下を通過するシュート。ジュニア世代のGKでは守れないエリアを狙ってのシュート。春野が夏春連覇を果たした。踏水会はボール保持者からの球出しに時間がかかり、スペースが作れない展開になってしまった。泳力、キープ力、シュート力のある女子チームなので、ボール展開スピードをもう一段向上させれば、この世代最強を築いていけるであろう。